

「子どもの居場所」におけるレクリエーション協会の今後

可能性 多くの子どもの居場所「あそびの城」が地域に継続

平成 18 年度は、全国で 167 カ所の「あそびの城」が開催されています。平成 19 年度以降も多くの地区が継続した展開を希望している。行政、企業、地域、あるいは、地域団体などと連携しながら、地域に根付いた子どもの居場所、「あそびの城」を目指していく予定です。3 カ年の運営ノウハウが蓄積しております。

可能性 蓄積した様々なノウハウを共有した展開

全国で活動が展開されていることで、各地区の活動の様子や運営状況、ノウハウといったものが共有できることも大きなメリットとなっています。地域の活かし方、人の活かし方、安全面についての共有など、蓄積した様々なノウハウを共有しながら進めていけます。こういったノウハウを、今後はより多く多くの地域へ発信していきたいと思えます。

可能性 新たな子どもの居場所「あそびの城」を模索

今後、レクリエーション協会としても、子どもの居場所となる「あそびの城」を増やしていく予定です。3 カ年、各地区での展開ノウハウ、運営ノウハウなどを活かし、より多くの地域の方などと一緒にしながら、新たな地区に子どもの居場所、「あそびの城」をつくって行きたいと思っています。

可能性 様々な活動用具、多くの加盟団体との連携

日本レクリエーション協会では、安全で、楽しい遊び道具も満載です。こうした道具を併用した活動また、様々な加盟団体とのパートナーシップのもと子どもの居場所、「あそびの城」を展開することで、子どもにとってより多様な場所として機能するよう図って行きたいと思えます。

可能性 日帰りで「レクリエーション技術」を多くの人へ

今後も、こういった子どもの居場所の必要性を真に捉え、スタッフ不足への課題へも対応していく予定です。レクリエーション・インストラクター研修会はもちろんのこと、その中の一部である、人と人つなぐ「コミュニケーションワーク」は 6 時間程度、安全管理か危機管理をはじめとする「レクリエーション事業論」も日帰り研修で学習ができます。安全で安心な場をつくっていくために、惹きつけるコツ、交流するコツなどを習得することが可能です。地域で、主婦や団塊世代層など向けにはうってつけの研修です。それぞれの得意分野にコミュニケーションのスキルを身につけ、子どもの居場所、「あそびの城」へ関わる人を増やしていきたいと思っています。

詳しくは、日本レクリエーション協会へお問い合わせ下さい

各地区での展開や「あそびの城」については以下まで
各種資料（全国の活動事例、「あそびの城」研修事例など）請求は以下まで
あそび・ネットにて活動紹介 <http://www.recreation.jp/asobi/>
日本レクリエーション協会紹介 <http://www.recreation.or.jp/>

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-20-7 水道橋西口会館 6 階

TEL 03-3265-1244 FAX 03-3265-1253

E-mail soshiki@recreation.or.jp

関係団体連絡先等登録票

運営協議会名	財団法人日本体育協会
問い合わせ先	
（団体名）	財団法人日本体育協会青少年スポーツ部少年団課
（担当者）	少年団課・課長 小林、少年団課・担当 加藤
（連絡先）	
TEL	03-3481-2222
FAX	03-3481-2291
E-mail	kato-r@japan-sports.or.jp
ホームページ	http://www.japan-sports.or.jp/
広報のポイント	<p>本会における地域子ども教室は本会内部組織である日本スポーツ少年団の登録団体を中心に展開されています。</p> <p>スポーツ少年団は、1962年に本会が創設したスポーツクラブ組織です。「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを!」「スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会の中に!」と願いつくられました。全国で約19万人の指導者と、約93万人のスポーツが大好きな仲間たちが、スポーツ少年団に登録しています。</p> <p>スポーツ少年団は、それぞれが独自に自主的で主体性をもった活動を展開しています。そのため、地域の特性や団員の要望などを取り入れて、特定のスポーツ種目のみの活動を行うのではなく、野外活動や文化・学習活動など、ジュニア期に必要な幅広い分野での様々な交流体験活動を年間計画の中に組み入れています。</p> <p>ホームページでは、最寄りの市区町村スポーツ少年団を検索することができます。放課後子ども教室推進事業における単位団の照会や、指導者派遣の協力依頼等の各種お問い合わせは市区町村スポーツ少年団へお願いします。</p> <p>なお、市区町村スポーツ少年団が設置されていない場合は、都道府県スポーツ少年団へお問い合わせください。</p>

関係団体連絡先等登録票

<p>運営協議会名</p>	<p>全国博物館における 地域子ども教室推進事業運営協議会</p>
<p>問い合わせ先</p>	
<p>(団体名)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども陶器博物館 2. 財団法人 安部榮四郎記念館 3. 一支國研究会 4. 財団法人 京都府京都文化博物館 5. 九州産業大学美術館地域子ども芸術体験教室 6. 川と歴史の探検隊実行委員会(千葉県立関宿城博物館) 7. 千葉県立房総のむら 8. 徳川美術館 9. 備前長船刀剣博物館 10. 明治大学博物館 11. 北海道開拓の村子ども教室推進実行委員会 (財団法人 北海道開拓の村)
<p>(担当者)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員 林 2. 学芸員 安部己図枝 3. 壱岐郷土館 館長 市山 4. 学芸課 南 博史 5. 緒方 泉 6. 学芸課長 太田文雄 7. 管理課広報・普及グループ 糸原清 8. 企画情報部 加藤啓子 9. 学芸員 植野哲也 10. ミュージアムマネージ部門担当 高橋 11. 企画普及課 松井則彰

<p>(連絡先)</p> <p>TEL</p> <p>FAX</p> <p>E-mail</p>	<p>1 . 0 5 7 2 - 2 7 - 8 0 3 8 0 5 7 2 - 2 7 - 8 0 3 9 kidsland@kanesho.co.jp</p> <p>2 . 0 8 5 2 - 5 4 - 1 7 4 5 0 8 5 2 - 5 4 - 1 7 4 5 eishiro@web-sanin.co.jp</p> <p>3 . 0 9 2 - 0 4 7 - 4 1 4 1 0 9 2 - 0 4 7 - 4 1 4 1 kyodoiki@sweet.ocn.ne.jp</p> <p>4 . 0 7 5 - 2 2 2 - 0 8 8 8 (代表) 0 7 5 - 2 5 2 - 2 9 7 3 (直通) 0 7 5 - 2 2 2 - 0 8 8 9 h-minami@bunpaku.or.jp</p> <p>5 . 0 9 2 - 6 7 3 - 5 1 6 0 0 9 2 - 6 7 3 - 5 7 5 7 ogata@ip.kyusan-u.ac.jp</p> <p>6 . 0 4 - 7 1 9 6 - 1 4 0 0 0 4 - 7 1 9 6 - 3 7 3 7 oota@sekiyadohaku.com</p> <p>7 . 0 4 7 6 - 9 5 - 3 3 3 3 0 4 7 6 - 9 5 - 3 3 3 0 itohara@chiba-muse.or.jp</p> <p>8 . 0 5 2 - 9 3 5 - 6 6 6 8 0 5 2 - 9 3 5 - 9 4 4 4 kato@tokugawa.or.jp</p> <p>9 . 0 8 6 9 - 6 6 - 7 7 6 7 0 8 6 9 - 6 6 - 7 9 7 1 tetsuya_ueno@city.setouchi.lg.jp</p> <p>10. 0 3 - 3 2 9 6 - 4 4 4 8 0 3 - 3 2 9 6 - 4 3 6 5 ma69004@mics.meiji.ac.jp</p> <p>11, 0 1 1 - 8 9 8 - 2 6 9 2 0 1 1 - 8 9 8 - 2 6 9 4 info@kaitaku.or.jp</p>
<p>(ホームページ)</p>	<p>1 . http://www.kanesho.co.jp</p> <p>2 . http://www.j-muse.or.jp/</p> <p>3 . http://www.ikikoku.jp</p> <p>4 . http://www.bunpaku.or.jp</p> <p>5 . http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/</p> <p>6 . http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/</p> <p>7 . itohara@chiba-muse.or.jp</p> <p>8 . http://www.tokugawa-art-museum.jp/ 子ども向け:http://www.yoshinao.net</p> <p>9 . http://www.city.setouchi.lg.jp/~osa-token/</p> <p>10. http://www.meiji.ac.jp/museum/</p> <p>11. http://www.kaitaku.or.jp</p>

広報のポイント

1. 地域の産業でもある、陶磁器に関わる活動内容ですので、地域産業に対する理解を深めながらも、楽しみながら体験できるよう考慮しています。絵付け体験を中心に活動を行っていますが、地元でも、絵付け体験はできて、子ども向けにやっている施設はあまりないことや、当館が普段から子どもたちの利用が多いこともあり、絵の具の色やアイテムも豊富に取り揃えているので、子どもが自由に自分の好きな絵を創造力豊かに描く事ができます。また、活動は博物館内の絵付け工房に限っているので、不審者等の心配もなく、安全で子どもだけでも安心して参加できます。
2. 放課後だけでなく、これまでも続けてきた家族で参加できる取り組みは、地域の人と人をつなぎ、よい結果を出しつつあります。このことは子どもたちが地域で安全に安心して遊べる居場所になります。何よりも地域の指導員が地域の文化・生活の知恵、生きる技を学ぶことができました。（活動範囲：松江市内）
3. ボランティアの指導者、コーディネーターがお世話します。吉岐の自然の中で様々な体験学習を行います。自然が教室、教科書です。自然観察・歴史体験・工作創作活動・昔遊び・昔話・科学実験・パソコン教室・レクレーション等。
4. 京都文化博物館において開催する展覧会では年間を通じて子ども教室を実施し、子どもたちが京都の文化・芸術に触れる機会をより多く演出します。また、学校・地域団体と連携して子どもたちが安全で安心して活動できる居場所を提供していきます。
5. 芸術学部を有する大学だからできる創造性プログラムを提供。子ども達は銅版画やコラグラフ、フォトグラムなど専門的な「造形表現」を体験します。
6. 関宿城博物館と地域の人たちが中心となり、博物館や博物館周辺で「昔のあそび」や「カヌー体験」「自然観察」など子どもや親子を対象とした事業を3年間展開してきた。昨年は6千人を超える子どもたちが参加し、保護者を含め1万人以上が体験した。今年も4千人を超える子どもたちが楽しんでおり、週末には子どもたちの楽しそうな笑い声が絶えない。
7. 江戸時代末から明治時代初期の商家の町並み・武家屋敷・農家などを再現した、当館の豊かな自然・歴史環境を生かした居場所づくりを行います。これまでの昔の遊び体験のほか、当館の様々な体験施設を活用することにより、伝統的な技術や生活様式を身近に学び、さらに異世代交流も活発に行えるものと考えます。
8. 徳川美術館は尾張徳川家に伝えられた数々の重宝、いわゆる「大名道具」をそっくりそのまま収め、展示・公開しています。収蔵品は徳川家康の遺品を中心に、初代義直（家康第九子）以下代々の遺愛品や、その家族が実際に使用した品ばかり一万数千件におよびます。世界的にも有名な「源氏物語絵巻」をはじめ国宝9件、重要文化財57件を含み、徳川美術館ならではの豊富さ、質の高さ、そして保存状態の良さを誇ります。
当館では、「子ども教室」と題し、「土曜子ども教室」と「夏休み子ども特別企画」の2つの企画を実施。「土曜子ども教室」は毎週土曜日（8月を除く）1日3回各1時間、小中学生を対象に、毎月月替わりの内容で、展示室での解説や大名文化を体験する「体験タイム」（刀や火縄銃の分解、兜の着装、折本の作成、貝あわ

せ、琴の演奏など)を実施し、尾張徳川家に伝わった大名道具を紹介しています

「夏休み子ども特別企画」は8月の毎日(解説および貝あわせは1日3回実施)、小中学生を対象に、企画展の展示解説、ギャラリー・クイズ、貝あわせ、兜づくりを実施しています。さらに、学校からの団体での体験や解説にも対応しています。

9. 刀剣の里には刀鍛冶だけでなく、白銀師・塗師といった刀職者がおり、話しをすることができる。様々なものづくりの相談も受けている。また、小刀製作講座においては、本物の職人(刀鍛冶)の指導を受けながら本物の素材を使った小刀の製作ができる。材料費は高額ではあるが、一生の宝物作りができる。

10. 明治大学博物館は、博物館友の会ボランティア解説員の協力のもとに地域の小・中学生の居場所作りとして、下記のような活動を行っております。

常設展示室内の畳敷きブースでの活動

毎週 火・木・金曜日開催

絵手紙用ポストカードに展示資料をスケッチしよう!
からくり人形を使って、江戸時代の遊びを体験しよう!
紐をよって、粘土に縄目模様をつけてみよう!
折紙で、博物館をイメージした作品を作ってみよう!
クイズ“これから何ができる?(本物さがし)”

「みゆ - じゃむ探検ノート」を持って、館内を探検。

第1弾 掘り出された 子どもの歴史 - 石器時代から江戸時代まで

第2弾 明治大学 いろは - 大学史展示室を調べてみよう

第3弾 Mm ADVENTHRS (マップ)

イベント

夏休み小学生・親子向けバックヤードツアー (8/18・24)

折紙を使って「花紋折りパッケージ」を作ってみよう!(12/21)

中学生向け博物館バックヤードツアー (12/23)

土偶をつくろう!(3/17・予定)

「博物館で働く - 社会に出る・社会を知る -」(アウト・リーチ活動 2/16・予定)

11. 子ども教室の舞台である北海道開拓の村では、52棟の移築・復元建造物・資料などの「野外博物館」の機能、さらに周囲の恵まれた自然環境を活用し、地域住民である様々なボランティア組織と協働により「子どもの居場所」を設けております。主な事業は、先人たちの生活文化を体験的に学び地域文化の継承と創造を育む心を養う七夕やひなまつりなどの【年中行事】創造性や技術力を高め、また北海道における果樹栽培農業を学ぶ版画教室やりんご農作業体験などの【創作・農作業体験】。技術力や想像力を高めるとともに仲間作りや社会性を養う薪割りやわらぞうりづくりなどの【昔の暮らし体験】。地域文化の伝承と創造を育む心を養う【おはなし会】。と4つのねらいにわけ約20事業を一年通して実施しています。

こども陶器博物館 地域子ども教室推進事業活動内容

こども陶器博物館・・・岐阜県多治見市美濃焼卸センター内に位置する

こども茶碗や絵本原画などを展示し、普段からこども、またはこどもを持つ家族が多く来館することから、館内体験施設を利用し、放課後や土日、また春休み・夏休みの子どもたちの居場所づくりを目的に、地域子ども教室推進事業として絵付け教室・ものづくり教室を行なっている。

活動内容・・・

当館内に併設している絵付け工房で絵付けを中心とした教室を開催。

初めての方や小さいお子様でも簡単に絵付けが出来るようスタッフが指導。

活動日時は開館中随時。10:00～17:00（16:00 受付終了）

基本的には月曜・火曜休館日なので水曜～日曜（ただし春休み・GW・夏休みは毎日）

予約不要。当日直接申し込み。

月に1回程度特別な技法での絵付け教室やものづくり教室も実施。（予約制）

夏休みには陶芸家の先生の指導による特別絵付け教室も行なう。

絵付け教室活動のねらい・・・

絵付け教室で、こどもたちに、地元の産業である陶器に関わる体験をしてもらうことで、伝統的な美濃焼きの絵付けの技法とその製造過程について、体験しながら理解してもらう。また、地元の方たちだけでなく、あまり関わりのない方たちにも触れやすい形で教室を開催することで、よりたくさんの方に参加してもらい陶器についての理解を深めてもらうとともに、焼き物をより身近なものに感じてもらう。地元の方や子どもたちには、近くにこのような場所と教室があることを知ってもらい、気軽に利用してもらうことで、居場所づくりにもつなげる。

具体的な教室の内容・・・

絵付けコース

下絵つけ・・・食器として使えるアイテムを作る。陶器としては半製品である素焼きに筆で絵をかいてもらい、お預かりし、施釉・焼成の後お渡し。

お渡しまでの期間は一ヶ月程度。

上絵付け・・・主に飾り用のアイテムを作る。そのままでも完成したアイテムに、更に上から筆で絵を描き焼き付ける。下絵つけとは区別し、飾り用アイテムとして使用してもらう。お渡しまでの期間は2週間程度。

筆が使えない小さいお子様向けにはクレヨンシリーズ。(陶器用の特殊なクレヨンで絵付けして焼き付ける)

その他体験コース

陶製コースター・・・当日もって帰りたい方におすすめ。陶製のコースターに油性ペンで絵を描き、焼成せずにそのまま持ち帰る。筆が使えない小さいお子様向け。

紙粘土・・・紙粘土で好きなものを作ってもらおう。こちらもそのままうちに持ち帰り乾燥させて完成。焼成しない。

過去の活動例・・・

- ・ 昔の技法でつくってみよう・・・銅版転写を使って絵つけしよう
 - ・・・摺り絵で絵付けしよう
 - ・・・ゴム版で絵付けしよう
- ・ 特殊な技法でつくってみよう・・・転写シートで絵付けしよう
 - ・・・スクラッチで絵付けしよう
 - ・・・筆以外の道具で絵付けしよう(糸・綿棒)
- ・ ものづくり教室・・・立体ねんどパズルをつくろう
 - ・・・タイルでカレンダーをつくろう
 - ・・・陶製八ガキを送ろう

など

当館絵付け教室または、イベントの様子は当館HP <http://www.kanesho.co.jp> でもご覧いただけます。

こども陶器博物館は、こどもたちが楽しく学べる場所、安心して過ごせる場所となれるよう日々活動しています。

一支國子どもクラブ参加者募集!!



とき 毎週土曜日・日曜日、夏休み期間中
午後1時30分から午後4時(予定)まで

場所 壱岐郷土館 (郷ノ浦)まなびの館(芦辺)
その他市内の遺跡、山野、海岸など

- ・参加対象 小学生(保護者の方も参加できます)
- ・クラブの内容 毎週土曜日・日曜日の午後の時間に開催します
(夏休み中は平日も開催します)

ボランティアの指導者、コーディネータがお世話します

壱岐の自然の中で様々な体験学習を行います。自然が教室、教科書です

家族、お友達、兄弟誘い合って「一支國子どもクラブ」に参加しませんか

内容は毎週変わりますが大きく分けて、自然観察・化学実験・歴史体験・
工作創作活動・パソコン教室・壱岐の昔話・昔遊び・レクリエーション等です
(詳しくは事務局にお尋ねください。 47-4141)

地域の大人の方へ

青少年問題行動の深刻化、青少年の奉仕・体験活動の不足、近隣住民間の連携
の欠如などの社会問題を抱えて、今の子ども達にしてやれることは・・・

壱岐の自然を活用し、保護者や地域の皆さんが主役となって、値域に根ざした
体験活動や交流活動を提供することにより、社会全体で子どもを育む環境を充実
させ、地域の教育力の再生を図ることを目的に開催します

この事業は文部科学省の「地域子ども教室推進事業の支援を得て実施します。
主催 一支國子どもクラブ実行委員会(事務局:壱岐郷土館 47 4141)



京都文化博物館子ども教室実行委員会

No.1 平成18年度京都文化博物館子ども教室事業一覧

文博子ども教室	触ってみよう エジソン・コレクション	手作り電池教室	京都文化博物館別館 クイズラリー	子ども木版画ワークショップ	子どものための 京都文化教室	史記の世界 体験ルーム	京都文化博物館探検ツアー クイズdeビンゴ	博物館に親しむ講座 手で触れる京の人形
母体事業	エジソン展	エジソン展	別館100周年記念事業	北斎と広重展	夏休み企画	司馬遷の史記展		常設 京の人形展
担当者	森脇	森脇	洲鎌	野口	歴史担当	南	森木	藤本
時期/回数	4/25～5/28 随時	5/5 1回	6/3～7/2 随時	7/29 8/8 2回	8/5,6 8/12,13	10/19～12/3 随時	2月17日	2/3,4 2回
対象/人数	制限なし	小学生(高)～中学生 30人	中学生以下	小学生(高)～中学生 10～15人	小中学生 20人	小学生(高)～中学生	小学生(低)～中学生	小学生(高)～中学生親子5組
人員	ボランティア定員2	ボランティア6名	なし	講師2名、ボランティア2名	講師4名(学芸員)ボランティア2名	学芸員、ボランティア5名	学芸員、ボランティア5名	講師(学芸員)、ボランティア5名
内容	エジソン展のハンズオンコーナー。トースターなどエジソンの発明品に触ってみよう。	電池制作体験。世界に一つだけの、オリジナル電池を作ろう。材料費等は参加者負担。	クイズラリー形式で明治建築を見学、クイズが解けた子には缶バッジをプレゼント。	紙製圧縮板を使って、多色木版画を体験する。鑑賞とセット。親子での参加も可。	1日目は染め工場の見学・金彩袱紗の制作体験。2日目は町家で浴衣の着付けにチャレンジそして、昔遊びで楽しみます。	兵馬俑の兵士に変身コーナーを設け、子どもたちが体験。その他ワークシートを配布。	日ごろ見ることのできない博物館の裏側見学とクイズに答えながらビンゴゲームを楽しみます。	展示室見学と解説。作品を教材として、扱い方や感触などを学ぶ。観察ノート等を作成。博物館実習の入門編。

京都文化博物館子ども教室実行委

No.2 平成19年度「京都文化博物館子ども教室」開催予定表

母体事業	丸紅コレクション「絵画と染織の名品」展	プリンセスの輝き「ティアラ展」	世界遺産「ナスカ展」	トルコ・トプカプ宮殿の財宝展	京都府美術工芸展	魁夷生誕100年「川端康成と東山魁夷」展	乾山の芸術と光琳展	子どものための京都文化教室	常設リ-
担当者	学芸員	学芸員	学芸員	学芸員	学芸員	学芸員	学芸員	子ども教室実行委員会	寺
時期/回数	4/13～5/27 1回	6/9～7/22 1回	8/4～9/24 体験コーナー 設置 随時	10/6～12/2 1回	12/15～1/6 1回	1/16～2/24 1回	3/8～4/13 1回	企画2回 夏 休みと春休み	毎
内容	丸紅コレクションからボッティチェリ、ルノアール、ルドン他西洋絵画を一堂で紹介	スペイン、イギリス他西洋の歴代王朝の秘宝のティアラとその女性の服飾なども紹介する日本初めての展覧会。	南米ペルーの「ナスカ地上絵」を最先端バーチャルシアターで体感します。	イスラム世界の大国オスマン帝国の文化発信基地となったトプカプ宮殿の貴重なコレクションを紹介します。	京都の美術工芸作家の公募展	東山魁夷の作品に記した川端の言葉をガイド役に展覧します。	尾形光琳の生誕350年と弟乾山の鳴滝窯開窯310年を記念する展覧会です	地域の皆さんと企画する教室です。	常設 史コ- 学芸 と共 りま

つながる！子ども、芸術、大学

- 大学美術館が取り組む「子どもの居場所」づくり -

九州産業大学美術館地域子ども芸術体験教室 推進事業実行委員会

九州産業大学美術館は、大学附属機関として2002年4月1日に開館しました。

現在、日本全国の大学・短大に設置される、「学術標本の整理、保存、公開展示、情報提供、研究・教育」機関であるユニバーシティ・ミュージアム約200館のうちの一つです。

本学美術館は学生の教育研究の場とともに、「地域に開かれた大学」として地域住民の生涯学習活動の場を提供し、平成16年度から文部科学省「子ども教室推進事業」を日本博物館協会から委託され「創造性教育プログラムによる子どもの居場所づくり」を実施しています。



「創造性教育プログラムによる子どもの居場所づくり」は、大学が有する社会的基盤・資源である「ひと、もの、こと」を活用することに特徴があり、地域密着型教育支援システムの構築を目指すものです。特に、芸術学部を有する本学だからできるユニークなプログラムが多数あります。

具体的な事業には、幼児・児童・生徒対象の「子ども芸術教室」があります。

地域子どもたちにとっては、学校や地域ではできない銅版画やコラグラフ、フォトグラムなど専門的な「造形表現」プログラムが体験できる場になっています。また、芸術を媒介にした大学生との交流を通じて、美術館はコミュニケーション能力、自尊感情などを培う「アートセラピー」プログラムの研究開発も行っています。

こうした本学美術館の取組には、本学学生、大学院生が学習成果を活かしたボランティアとして多数参画していて、地域社会貢献できる人材及び創造的かつ実践的な人材の育成につながり、高い教育効果を上げています。

なお、こうした取り組みを広範な学生の参加を促す意味から、本学芸術学部では、2004年度から2年次以上が履修できる総合科学科目「ボランティア活動(A):2単位」を設置し、学生のボランティア参加と活動を評価できるようにしました。



むかしのくらしと遊び実行委員会の活動内容について

1. **活動場所** 千葉県立房総のむら内（千葉県印旛郡栄町竜角寺1028）

2. **活動開始時期** 平成18年4月1日～

3. 千葉県立房総のむらについて

房総のむらは、房総の伝統的な生活様式や技術を来館者が直接体験するとともに、県内各地から出土した遺物や、武家・商家・農家などの展示を通して歴史を学んでいただくことを目的とする博物館です。

所在地：千葉県印旛郡栄町竜角寺1028

開館時間：午前9時00分～午後4時30分

休館日：月曜日（祝日の場合は火曜日）・年末年始・臨時休館日

入館料：一般300円 高・大学生150円 中学生以下・65歳以上無料

4. 実行委員会の活動内容

(1) 土日を中心に、イベントを実施

- 「竹の紙鉄砲づくり」
- 「紙芝居・千葉の昔語り」
- 「竹の豆鉄砲づくり」
- 「七宝キーホルダーづくり」
- 「凧あげをしよう」
- 「たき火をしながら遊ぼう」など

(2) 子ども会などの団体から予約を受けて事業を実施

- 「竹の水鉄砲づくり」
- 「結んでみよう」など

(3) いつでも遊べる事業を実施

農家庭先での竹馬遊び・羽子板遊びなど

5. 事務局

千葉県立房総のむら内

関係団体連絡先等登録票

運営協議会名	全国科学系博物館等における 地域子ども教室推進事業運営協議会
問い合わせ先	
(団体名)	独立行政法人 国立科学博物館
(担当者)	広報・サービス部 情報・サービス課 課長 井上透、 係長 齋藤健
(連絡先)	
TEL	03-5814-9861(課長)、9864(係長)
FAX	03-5814-9898
E-mail	ibasyo@kahaku.go.jp
(ホームページ)	http://www.ibasho-kagaku.com/
広報のポイント	<p>当運営協議会がとりまとめを行った65の実行委員会における平成17年度の活動内容を、「実施事例集」としてPDFファイルにまとめました。</p> <p>これをCD-Rに収め、各都道府県・政令指定都市教育委員会ご担当者様宛に発送させていただきました。</p> <p>ぜひご覧いただき、科学系博物館等ならではの教室についてご理解いただければと思います。</p>

関係団体連絡先等登録票

運営協議会名	子どもメディアフォーラム運営協議会
問い合わせ先	
(団体名)	子どもメディアフォーラム運営協議会 事務局
(担当者)	稲田 友
(連絡先)	
TEL	0120-346-661
FAX	03-3500-8842
E-mail	houkago@ntt.com
(ホームページ)	http://kodomo-mf.jp
広報のポイント	<p>「インターネット子ども教室」と題して、平成18年度は全国約300ヶ所で活動を行っております。</p> <p>子どもたちの自ら学習する意欲をつけ、学力向上することを目的とした「放課後学習クラブ」と、身の回りの安全について自ら考え、判断する力を養う「安全教材パッケージ(インターネット安全・生活安全・食の安全の3点セット)」を提供して、子どもたちが有意義に放課後を過ごせる環境を作っています。</p>